



市民の方へ

事業者の方へ

● 観光・文化

市政・広報

よくあるご質問

 横手市ウェブサイトの情報を探す

検索

[検索の方法](#)[サイトマップ](#)

観光・文化


[横手のひと、ひと、人](#)
[横手の匠たち](#)
[観る](#)
[遊ぶ](#)
[味わう&買う](#)
[ぬぐだまる\(温泉\)](#)
[泊まる](#)
[マップから探す](#)

横手市役所 代表電話

0182-35-2111

窓口受付: 8時30分～17時15分

[各課連絡先](#)
[横手市トップ](#) > [観光・文化](#) > [横手のひと、ひと、人](#) > [横手の匠たち](#) > [平成26年度](#) > 匠～大坂廣治さん
 （市報よこて2014年11月1日号掲載）

印刷用ページ

匠～大坂廣治さん（市報よこて2014年11月1日号掲載）

最終更新日: 2014年10月31日

ページ番号: 000019190

vol.108 畳作り職人 ～和のぬくもりを残したい～



畳は日本人の生活になくてはならないもの。その伝統を守り続けたい。

日本固有の床材としての歴史を持つ畳が、今の形になったのは平安時代にまでさかのぼると言う。和室の象徴であり、私たちの生活に欠かせない畳を長年にわたって作り続けている匠が大坂さんである。

高校卒業後、東京の大型重機を製造する会社で5年ほど働いたが、家業の畳屋を継いだ兄を手伝うために下根岸町の実家に戻る決意をした。当時の畳作りは機械化されておらず、針を使い縫い上げる作業で手には硬いたこができたが、それが職人の証になっていった。30歳の時、昔から取引のあった畳の下地になる畳床を製造している平鹿町の大坂畳店に婿養子として迎え入れられた。住宅はもちろん、公共の施設や寺院などから畳の注文があり、多い時で10人の従業員を必要とするほど忙しい時期が続いた。

その後、時代の移り変わりとともに畳の素材は変化していった。畳表は、岡山や熊本が産地として有名なイ草の他に、最近では和紙で織ったものや合成樹脂を使ったものが作られるようになった。わらで作られる畳床も、断熱性に優れたウレタンを芯材に使ったものなどが生産されている。またデザイン性を重視したものや、手軽に敷くことのできる薄いものなどさまざまな種類の畳が作られている。

匠は「多くの工程で機械を利用するようになり、手縫いで仕上げることはなくなった。作業効率を考えると機械は必要。それに手作業で習得した技術を生かし、常に丁寧な仕事を心がけている」と47年間の経験から裏打ちされた信条を熱心に語る。

畳は、湿気が多い時は水分を吸収するなど室内の環境を整える作用を持っている。「安らぎを感じさせてくれるほかに、人に優しい素材も畳の魅力。日本伝統の文化をなくしてはならない」と力強く話す匠。作業場で畳を取り扱う手際の良さは、今もなお健在。畳を通じて、和のぬくもりを継承してきた匠の職人人生に終わりはない。

大坂廣治さん（71歳・平鹿）



おおさか ひろじ

昭和18年、旧横手町生まれ。畳作り職人として今年で47年目を迎える。職業訓練指導員、一級畳製作技能士の資格を持つ。また秋田建築労働組合平鹿支部の支部長も務め、各地域で建築に関する事業を実施し業界の発展にも尽力した。平成26年度横手市技能功労者。

このページに関するアンケート

このページの掲載情報は役に立ちましたか？

☐役に立った ☐どちらともいえない ☐役に立たなかった

送信

このページに関するお問い合わせ先

総務部秘書広報課（広報係）

所在地：〒013-8601 秋田県横手市中央町8番2号

電話番号：0182-35-2162 ファックス：0182-35-2221

メールアドレス：koho@city.yokote.lg.jp

お問い合わせフォーム

[▲ ページの先頭へ戻る](#)

[横手市ホームページについて](#) | [個人情報の取扱いについて](#) | [お問い合わせ](#) | [関連リンク集](#)

横手市役所[[交通アクセス](#)] 〒013-8601 秋田県横手市中央町8番2号

電話番号：0182-35-2111（代表） ファックス：0182-35-2221

メールアドレス：koho@city.yokote.lg.jp



Copyright(C) Yokote City All rights reserved.